

きずな

非認知能力

失敗したときや壁にぶつかったときに乗り越える力

「柔軟な心」の育み方

みなさんは、お子さんの健やかな成長を願われていることと思います。しかし、お子さんの毎日の生活は順調な日ばかりではありません。友達との関係に傷ついたり、自分の力に悩んだりすることもあるでしょう。

そのようなとき大切なことは、どれだけ困難な状況に出会っても投げ出したり、あきらめたりせず、前を向き、また立ち上がろうとする力です。

そこで、今回は失敗したときや壁にぶつかったときに乗り越える力（柔軟な心）の育み方の例を紹介します。

その1 転ばせないことより、

転んだときに立ち上がる力をつけましょう!

〈 例 忘れ物をした場合 〉

お子さんが忘れ物をしたら、友だちに相談するか、何かで代用できないか自分で考えることでしょう。保護者がすぐに助けの手を差し伸べるのではなく、少し見守ることで、臨機応変に対応する力が育っていきます。そして、忘れ物をして困った経験をしたことにより、次からは忘れないように気をつけるかもしれません。

保護者は、お子さんがどうすれば忘れ物をしないようになるか、お子さんと一緒にチェックする等、具体的にアドバイスしましょう。

子どもの頃の失敗やつまずきは、取り返しがつきません。むしろ、生きていくための学習と思って、見守っていけるといいですね！

その2

失敗したときこそ、挑戦したことをほめる



お子さんが何かに挑戦しようとしている時、お子さんより人生経験が長いみなさんは、お子さんの様子を見て、「これは、うまくいかないかもしれない。」「失敗するのでは。」等、想像してしまうこともあるでしょう。

失敗したとき

「ほ～ら、言ったとおりでしょ。」
「だから、駄目だといったでしょう。」等を言ってしまうことはないでしょうか。

うまくいかなかった時、失敗して一番がっかりしているのはお子さん本人です。



お子さんが失敗したとき、

「次はきつとうまくいくよ。」

「挑戦したあなたは、すごいよ。」等

温かい言葉をかけてみてはどうでしょう。



なぜうまくいかなかったか、その原因を親子で一緒に考え、次の挑戦へとつなげられるといいですね！

失敗したときは叱るのではなく、意欲につながる言葉を保護者がかけることが大切です。

「生まれてきてくれてありがとう！」

みなさんは、お子さんが誕生されたとき、こんな気持ちをもたれたのではないのでしょうか。

子育ての正解は一つではありません。誰もが迷ったり、困ったりしながら子育てをしています。お子さんの心や行動を見守りながら、子育てをしていけるといいですね。

